

Katsurao AIR

2023年2月27日(金)〜2月29日(日)、Katsurao AIR 後期オープンスタジオを開催しました。葛尾村立葛尾中学校(休校中)にて後期参加アーティストの太田祐司さん、尾角典子さん、山田悠さん、山口諒さんが、3階にあるスタジオと1階会場にて活動の紹介や作品の発表を行いました。鑑賞者は、ヴァーチャルリアリティー空間の中の葛尾村に訪れると新しい神様に出会えたり、葛尾村の真実とフェイクを織り交ぜた映像作品をみることで日常が揺さぶられるような体験をしたり、「かご馬」のメイクリサーチするところから展開する社会問題提起についてや、「百石の家」の古材で作られた葛尾村でしか機能しない日時計が並びました。会場にてアーティ



OTA Yuji



YAMADA Haruka



YAMAGUCHI Ryo



OKAKU Noriko

スト自ら来場者へ作品の意図や今後の展開についてお話しただくことで、アーティストの活動や、アートの多様な表現と作品の内容をよく見て知っていただく機会になりました。

か つ ら お 企 画 室



12月、1月とワークショップを行いました。12月は村民の先生方に教えていただきながら「葛尾村の稲から藁もじりをして正月飾りを作ろう」を開催しました。参加者のほとんどは「藁もじり」は初体験！始めはみんな大苦戦していました。教えてもらいながら手の動きを見よう見真似で動かし続けることで「もじる」ことができるようになりました。最後には思い思いのお正月飾りを作り上げることができました。



1月は、かつらお企画室スタートからご協力いただいている金泉ニットさんとのワークショップ「ニット工場が使われなくなった糸を使ってポンポンフクロウを作ろう」でした。糸の選び方や目の付け方がちよつと違うだけで、個性の違うフクロウが沢山生まれました。今年度予定していた全てのワークショップが無事に終了しました！沢山のご参加、ご協力ありがとうございました。来年度も葛尾村ならではのワークショップを企画していきたいと思っております。引き続きよろしくお願いたします！

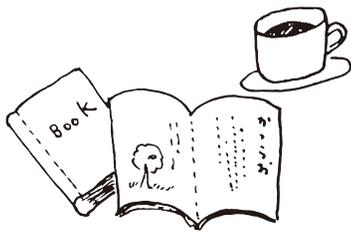
今月の一冊

たまごのはなし

しおたにまみこ



選書：スタッフ 大井田



絵本にしてはちょっと地味な色合いだな…パツと表紙を見たときの印象はこんな感じ。でも手に取って間近で見ると、鉛筆画で緻密に描きこまれた絵にじーっと見入ってしまいます。派手な色味はないものの、じっくり見るほど絵柄の質感の繊細さや登場するたまごやマシユマロのユニークな表情などの豊かさに気づかされます。お話しもまた驚き。キッチンに仲間と一緒に長い間転がっていたたまごのうちの1つが、ある日目を覚まし動き出し、そのたまごがキッチンを冒険しながら語っていくというものです。本文にはひらがなとカタカナで漢字はほとんどありません。一見荒唐無稽で子ども向けのお話しかと思いきや、たまごの語りには大人にこそ響くシーンやハツとされられるお話があります。ユーモラスでシニール、可愛らしさもあり毒つ気もあり、哲学のようでもあり、何度も読み直したい不思議な魅力を持った絵本です。

かつらお暮らし

葛尾村での暮らしの様子をお届けします



雪が降る日が多く、寒さも厳しくなりましたね。葛尾といえは村のキャラクターにもなっている『凍み餅』文化が連想されますが、先日スタッフが初めて凍み餅づくりを体験しました。乾燥後の餅はもじった藁で括りつける作業があるので、12月のワークシヨップで教わった藁もじりスキルを存分に発揮できました！凍み餅が吊るされている様子が冬を感じさせ、良い情景だなと感じました。

スタッフ紹介

大山里奈（コーディネーター）

茨城県出身。「生活の知恵」や「何事もない日常」の中に大切なものが隠れているのではないかと思いついて、2021年から葛尾村に出会い、2021年から葛尾村に関わりを持つようになった。8年間の教育機関での勤務中に人と環境の切つては切れない関係性を体感し、人と環境、人と時間の関係性から心地の良い生活空間をつくりたいと思いつつも明るく元気でムードメーカーな大山さんです！よく村内を歩いているのでぜひ見かけたら声をかけてみてくださいね。



編集後記

ワークシヨップやオンラインスタジオを通じて、冬でもイベントがあると来村してくださる方がいたり村民の方々にも喜んで頂けたりと、素敵な光景を見ることができました。葛尾村の冬に少しでも賑やかさをもたらすことが出来ていたら嬉しいです。今後もしつ人が集まれるように明かりを灯せていけたらと思いますので、今後とも活動を見守って頂けますと幸いです！（スタッフ上野）

最新情報はこちらで発信しています

Facebook



instagram



Web サイト

